# “地元力”を生かした公開活動－聴竹居倶楽部の 15 年

一般社団法人 聴竹居倶楽部　代表理事
松隈（まつくま）　章（あきら）

内閣総理大臣を3度務めた政治家・近衛文麿らが重要な会談を行い政治の表舞台となった時代の姿の「荻外荘（てきがいそう）」を創建の地 荻窪によみがえらせるという杉並区が進めている「荻外荘復原・整備プロジェクト」では、令和 6 年（2024 年）12 月に建物が公開されることになっている。その公開の参考事例のひとつとして「荻外荘」を設計した伊東忠太の教え子の一人、建築家・藤井厚二の自邸で国の重要文化財「聴竹居」（京都府大山崎町）の公開活動について紹介したい。

## ■ 地元と一体となった生きた活用へ

昭和 3 年（1928 年）に竣工した「聴竹居」【写真1】は、昭和 13 年（1938 年）に藤井厚二が亡くなったあとも竹中工務店が取得するまでは藤井家が所有し続けてきた。昭和 27 年（1952 年）に藤井家が引っ越したのちは長らく借家として使われてきたが、水廻りを含め大きな改造はなされなかった。借家人が居なくなり空家になった平成 20 年（2008 年）春、「聴竹居」を藤井家から私が個人的に賃借し大山崎町の有志と共に任意団体の聴竹居倶楽部（2016 年末に一般社団法人化）を結成し、その組織が主体となって公開することにした。当時は建築界でもその存在をあまり知られていなかった「聴竹居」。ましてや一般の方々にはなおさらである。そこで、公開・管理体制を整え、ホームページをつくり、予約制で一般公開を始めた。その後、日本全国各地からの見学者が徐々に増え、コロナ禍前にはその数は国内外から年間約 1 万人（平成 30 年（2018 年）実績）にも達するようになった。

写真 1 「聴竹居」全景

写真 2　聴竹居 紅葉を愛でる会 2022

通常の事前予約制の見学だけではなく新緑や紅葉に包まれた「聴竹居」を予約なしに気軽に見ていただこうと始めた“愛でる会”【写真２,13-16】は、多くの方々が訪れる春と秋の恒例行事としてすっかり定着している。さらに、平成 21 年（2009年）に漆芸作家の「聴竹居との出会い-栗本夏樹展」【写真３-５】を、平成25年（2013年）に現代アーチストの「河口龍夫展」を開催し、「聴竹居」の空間と

写真 3「聴竹居との出会い-
栗本夏樹展」2009案内チラシ

写真 4 栗本夏樹展 会場風景①
（撮影；齋藤さだむ）

写真5 栗本夏樹展 会場風景②
（撮影；齋藤さだむ）